

(別表3)

言語聴覚学科 教育課程

1 専門基礎分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
基礎医学							
医学総論	30				30	2	
解剖学Ⅰ	30				30	2	
生理学		30			30	2	
病理学		30			30	2	
小計	60	60	0	0	120	8	
臨床医学							
内科学		30			30	2	
小児科学		30			30	2	
精神医学		30			30	2	
リハビリテーション医学			30		30	2	
耳鼻咽喉科学	30				30	2	
臨床神経学Ⅰ		30			30	2	
臨床神経学Ⅱ			30		30	2	
形成外科学		15			15	1	
小計	30	135	60	0	225	15	
臨床歯科医学							
臨床歯科医学	30				30	2	
小計	30	0	0	0	30	2	
音声・言語・聴覚医学							
解剖学Ⅱ	30				30	2	
解剖学Ⅲ	30				30	2	
解剖学Ⅳ	30				30	2	
小計	90	0	0	0	90	6	
心理学							
臨床心理学Ⅰ	30				30	2	
臨床心理学Ⅱ		30			30	2	
生涯発達心理学Ⅰ	30				30	2	
生涯発達心理学Ⅱ		30			30	2	
学習・認知心理学	45				45	3	
心理測定法	30				30	2	
小計	135	60	0	0	195	13	
言語学							
言語学		30			30	2	
小計	0	30	0	0	30	2	
音声学							
音声学	45				45	3	
小計	45	0	0	0	45	3	
音響学							
音響学	30				30	2	
聴覚心理学		15			15	1	
小計	30	15	0	0	45	3	
言語発達学							
言語発達学	15				15	1	
小計	15	0	0	0	15	1	
社会福祉・教育							
社会保障制度	15				15	1	
リハビリテーション概論	15				15	1	
医療福祉教育・関係法規	15				15	1	
小計	45	0	0	0	45	3	
専門基礎分野合計	480	300	60	0	840	56	

2 専門分野

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
言語聴覚障害学総論							
言語聴覚障害概論Ⅰ	30				30	2	
言語聴覚障害概論Ⅱ		30			30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅰ			30		30	2	
言語聴覚障害診断学Ⅱ			30		30	2	
小計	30	30	60	0	120	8	
失語・高次脳機能障害学							
失語症Ⅰ-1	30				30	2	
失語症Ⅰ-2		30			30	2	
失語症Ⅱ			60		60	4	
高次脳機能障害学Ⅰ	30				30	2	
高次脳機能障害学Ⅱ		30			30	2	
小計	60	60	60	0	180	12	
言語発達障害学							
言語発達障害Ⅰ-1	30				30	2	
言語発達障害Ⅰ-2		60			60	4	
言語発達障害Ⅱ			30		30	2	
言語発達障害Ⅲ			30		30	2	
言語発達障害Ⅳ		30			30	2	
小計	30	90	60	0	180	12	
発声発語・嚥下障害学							
音声障害			30		30	2	
構音障害Ⅰ		30			30	2	
構音障害Ⅱ			30		30	2	
構音障害Ⅲ		30			30	2	
構音障害Ⅳ			30		30	2	
嚥下障害Ⅰ	30				30	2	
嚥下障害Ⅱ			45		45	3	
吃音			30		30	2	
小計	30	60	165	0	255	17	
聴覚障害学							
小児聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
小児聴覚障害Ⅱ			30		30	2	
小児聴覚障害Ⅲ			30		30	2	
成人聴覚障害Ⅰ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅱ		30			30	2	
成人聴覚障害Ⅲ			15		15	1	
補聴器・人工内耳			30		30	2	
視覚・聴覚二重障害			15		15	1	
小計	0	90	120	0	210	14	
臨床実習							
臨床実習Ⅰ		40			40	1	
臨床実習Ⅱ				160	160	4	
臨床実習Ⅲ				320	320	8	
小計	0	40		480	520	13	
専門分野合計(臨床実習を除く)	150	330	465	0	945	63	
専門分野合計	150	370	465	480	1465	76	
総計	630	670	525	480	2305	132	
年次合計	1300		1005		2305	132	

3 選択科目

科目	第1年次		第2年次		時間数	単位数	備考
	前期	後期	前期	後期			
レクリエーション活動援助法							
レクリエーション活動援助法Ⅰ	30				30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅱ		30			30	1	
レクリエーション活動援助法Ⅲ			30		30	1	
小計	30	30	30	0	90	3	

*講義及び演習は15時間を1単位、臨床実習は40時間を1単位とする。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学総論	佃 宗紀	1	2	後期	必修

◇講義概要

疾病・障害の概念と社会環境、医の倫理、法・制度、保健統計、疫学健康管理について学ぶ。

◇到達目標

- ・ 疾病・障害の概念と社会環境について説明できる
- ・ 医の倫理、法・制度について説明できる
- ・ 保健統計、疫学健康管理について説明できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	健康の概念、背景因子	講義	
第2回	QOL、ノーマライゼーション	講義	
第3回	リハビリテーション、生活機能(ICF)	講義	
第4回	医の倫理	講義	
第5回	診療補助行為、チーム医療、地域医療	講義	
第6回	医療事故、EBM	講義	
第7回	人口・保健統計	講義	
第8回	疫学	講義	
第9回	健康管理・予防医学	講義	
第10回	母子保健	講義	
第11回	成人・老人保健	講義	
第12回	精神保健	講義	
第13回	感染症対策	講義	
第14回	環境保健	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	公衆衛生がみえる 2022-2023 (メディックメディア)
参考図書	
留意事項	予習・復習につとめること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学 I	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、細胞、組織、皮膚、骨、筋、血液、免疫系において、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	解剖生理学とは？—ホメオスタシスとフィードバック機構	講義	
第2回	細胞と組織(1)—細胞の構造と機能	講義	
第3回	細胞と組織(2)—組織の構造と機能	講義	
第4回	皮膚と膜(1)—皮膚と膜の構造と機能	講義	
第5回	皮膚と膜(2)—体熱産生、体温	講義	
第6回	骨格系(1)—骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第7回	骨格系(2)—頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格、関節	講義	
第8回	筋系(1)—筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第9回	筋系(2)—骨格筋（頭部、体幹）	講義	
第10回	筋系(3)—骨格筋（上肢、下肢）、筋の病気	講義	
第11回	血液(1)—血球成分、血球機能	講義	
第12回	血液(2)—血球分化、凝固と線溶、血液型	講義	
第13回	免疫系(1)—自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第14回	免疫系(2)—免疫と感染症、自己免疫疾患、アレルギー	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 62 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 28 %）	■レポート（ 10 %）	□その他（ %）

教科書	「人体の構造と機能（1）解剖生理学」（ナーシンググラフィカ） 「イメージできる解剖生理学」（ナーシングサプリ）
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」（医学書院）
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学	坂田 進	1	2	後期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、消化器、腎、内分泌腺、生殖器、神経、感覚器において、これらの生理機能とその構造・疾病に関連づけて学習する。さらに、実習を通して生理機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。
3. 自らが被験者となる実習を通して学習内容の理解を深める。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	消化器系(1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第2回	消化器系(2)－消化の生理	講義	
第3回	消化器系(3)－吸収・排泄の生理	講義	
第4回	泌尿器系(1)－腎の生理	講義	
第5回	泌尿器系(2)－排尿の生理	講義	
第6回	内分泌系(1)－脳ホルモン、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	講義	
第7回	内分泌系(2)－膵ホルモン、副腎ホルモン、性腺ホルモン	講義	
第8回	生殖器系－女性生殖器の生理、男性生殖器の生理	講義	
第9回	神経系(1)－ニューロン、シナプス、中枢神経系	講義	
第10回	神経系(2)－末梢神経系、生体リズム	講義	
第11回	感覚系(1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第12回	感覚系(2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第13回	生理学実習(1)－視覚機能の測定	演習	
第14回	生理学実習(2)－重量感覚の測定	演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (62 %)	□実技試験 (%)	■演習評価 (4 %)
	■小テスト (24 %)	■レポート (10 %)	□その他 (%)

教科書	「人体の構造と機能(1) 解剖生理学」(ナーシンググラフィカ) 「イメージできる解剖生理学」(ナーシングサプリ)
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	廣石伸互	1	2	後期	必修

◇講義概要

様々な病気および病的状態の原因、それらの発症・進展の過程などを、細胞レベルまで掘り下げ、病気の本質を科学的に学ぶ。

◇到達目標

言語聴覚士として、病気を抱える人たちに寄り添うには、病気の実態を正確に把握することが必要不可欠である。主要な病気を、循環障害や遺伝子異常などのように系統的に整理し、それぞれを細胞・組織レベルおよび肉眼レベルで総合的に理解することを目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	病理学とは	講義	
第2回	細胞・組織の損傷	講義	
第3回	炎症	講義	
第4回	免疫	講義	
第5回	アレルギー	講義	
第6回	感染症	講義	
第7回	循環器障害 充血とうっ血	講義	
第8回	循環器障害 虚血と梗塞	講義	
第9回	代謝障害	講義	
第10回	先天異常の分類	講義	
第11回	先天異常 染色体異常と遺伝子異常	講義	
第12回	腫瘍とは何か	講義	
第13回	悪性腫瘍の広がりと影響	講義	
第14回	脳・神経系の疾患	講義	
第15回	試験		

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	系統看護学講座, 専門基礎分野, 病理学 第6版, 医学書院
参考図書	
留意事項	講義内容は、理解度に応じて変更することがある

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	佃 宗紀	1	2	後期	必修

◇講義概要

内科的疾患を有する患者のリハビリテーション治療を有効かつ安全におこなうために必要な内科学の知識を習得する。内科学総論・主な症候学につき循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・内分泌疾患・アレルギー疾患等、系統別・臓器別の知見を深める。

◇到達目標

主要な内科的疾患の特徴について述べられる。
対象患者の対処上の留意事項について理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	内科学総論、診断と治療	講義	
第2回	症候学	講義	
第3回	循環器疾患総論	講義	
第4回	循環器疾患各論	講義	
第5回	呼吸器疾患	講義	
第6回	消化器疾患	講義	
第7回	肝胆膵疾患	講義	
第8回	血液・造血器疾患	講義	
第9回	代謝疾患	講義	
第10回	内分泌疾患	講義	
第11回	腎・泌尿器疾患	講義	
第12回	免疫疾患	講義	
第13回	感染症	講義	
第14回	栄養学・まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野」内科学 第4版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	教科書の該当頁を講義前に読んでおくこと。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	田中輝房	1	2	後期	必修

◇講義概要

<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長と発達を学ぶ。 2. 小児期特有の基本的な生理と病気について学ぶ。
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科学の特長である小児の発達（運動、精神など）を理解する。 2. 小児期に多くみられる疾患について時には生理学とともに理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章：A,B 小児の発達と成長 P2～14	講義	
第2回	第1章：C,D 栄養と小児保健 P14～29	講義	
第3回	第3章：新生児・未熟児疾患 P38～57	講義	
第4回	第4章 A～D：先天異常 P58～69	講義	
第5回	第4章 E：先天代謝異常 P69～76	講義	
第6回	第5章：神経・骨・筋肉疾 P77～120	講義	
第7回	第6章：循環器疾患 P121～132	講義	
第8回	第7・8章：呼吸器疾患と感染症 P133～155	講義	
第9回	第9章：消化器疾患 P156～167	講義	
第10回	第10章：内分泌疾患 P168～176	講義	
第11回	第11章：血液疾患 P177～185 ・ 第14章：悪性腫瘍 P203～205	講義	
第12回	第12章：免疫・アレルギー疾患、膠原病 P186～195	講義	
第13回	第13章：腎・泌尿器疾患 P196～202	講義	
第14回	第15～17章：心身症その他 P206～226	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (95%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (宿題 5%)
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版：医学書院
参考図書	適時プリントを配布する
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> ①各講義の範囲を一読し、予習しておくこと ②おおむね 各講義の終了後、宿題を出します。次回講義日 午前中までに提出すること。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学	水井 亮	1	2	後期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎知識を学習する。具体的には、総論、各論（器質性精神障害、機能的な精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、精障害、老年期の障害）。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と発症メカニズムの仮説を概説できる。
治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神疾患の診断と評価	講義	
第2回	発達障害①総論・自閉スペクトラム症	講義	
第3回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第4回	統合失調症	講義	
第5回	気分障害①大うつ病性障害	講義	
第6回	気分障害②双極性障害	講義	
第7回	アルコール・薬物依存症	講義	
第8回	動機付け面接	講義	
第9回	自傷・自殺	講義	
第10回	神経症	講義	
第11回	向精神薬総論	講義	
第12回	精神遅滞、てんかん	講義	
第13回	認知症	講義	
第14回	摂食障害・パーソナリティ障害	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100%)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	配布資料
参考図書	New Simple Step 精神科 総合医学社
留意事項	予習と復習をして講義に臨むこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション医学	関谷博之	2	2	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションおよび医療の概要、両者の関連性について学ぶ

◇到達目標

リハビリテーション、医療の意味を知ること。 身体運動・行動・行為を支える人体システムの理解。 「システム不全＝障害」について。 障害を引き起こす疾患の理解。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの語源・定義について	講義	
第2回	身体各システムの概略・測定法の原理	講義	
第3回	理学療法・作業療法・言語療法について	講義	
第4回	理学療法の評価・実践上必須の徒手筋力テスト(MMT)とROMテストについて	講義	
第5回	運動・認知機能について	講義	
第6回	中枢神経障害①(錐体路障害・コミュニケーション障害)	講義	
第7回	中枢神経障害②(錐体外路障害・大脳基底核の障害)	講義	
第8回	脊髄障害・末梢神経障害・筋障害	講義	
第9回	脳性麻痺・発達障害	講義	
第10回	遺伝疾患について	講義	
第11回	骨関節疾患①(関節リウマチ等)	講義	
第12回	骨関節疾患②(変形性関節症等・切断)	講義	
第13回	循環器疾患・呼吸器疾患	講義	
第14回	運動生理学・運動解剖学 　　まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■定期試験(100%) □実技試験(%) □演習評価(%) □小テスト(%) □レポート(%) □その他(%)
------	--

教科書	資料を配布する
参考図書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第3版 (診断と治療社)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
耳鼻咽喉科学	尾崎大輔	1	2	前期	必修

◇講義概要

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、咽頭科学、気管食道科学の解剖、生理、疾患

◇到達目標

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、咽頭科学、気管食道科学等について学ぶ。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	耳科学 解剖、生理	講義	
第2回	耳科学 外耳疾患	講義	
第3回	耳科学 中耳疾患	講義	
第4回	耳科学 内耳疾患	講義	
第5回	耳科学 聴力検査	講義	
第6回	鼻科学 解剖、生理	講義	
第7回	鼻科学 鼻・鼻腔の疾患①(鼻出血、顔面骨外傷、アレルギー性鼻炎)	講義	
第8回	鼻科学 鼻・鼻腔の疾患②(副鼻腔の疾患)	講義	
第9回	口腔咽頭科学 解剖、生理	講義	
第10回	口腔咽頭科学 疾患	講義	
第11回	喉頭科学 解剖、生理	講義	
第12回	喉頭科学 疾患	講義	
第13回	気管・食道科学 解剖、生理	講義	
第14回	気管・食道科学 疾患学	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック 第2版
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学 I	前川基継	1	2	後期	必修

◇講義概要

脳血管障害、脳神経外科学などについて学ぶ

◇到達目標

- ・脳神経、脳血管系について説明できる
- ・脳疾患の原因、対応について理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科緒論	講義	
第2回	脳・脊髄の臨床解剖① 頭蓋と頭蓋内腔構造、髄膜、脳室と髄液循環	講義	
第3回	脳・脊髄の臨床解剖② 大脳、脳幹、小脳、脊髄の解剖と機能・局所徴候	講義	
第4回	脳・脊髄の臨床解剖③ 脳神経の機能、主要脳血管の走行・支配領域	講義	
第5回	神経学的検査	講義	
第6回	脳神経疾患の補助診断法	講義	
第7回	脳に特異的な症候と病態	講義	
第8回	脳腫瘍① 脳腫瘍の分類、発生頻度、症状、診断、治療法	講義	
第9回	脳腫瘍② 神経膠腫、髄膜腫など各脳腫瘍	講義	
第10回	脳血管障害① 脳血管障害の疫学、出血性脳血管障害	講義	
第11回	脳血管障害② 虚血性脳血管障害、もやもや病	講義	
第12回	頭部外傷	講義	
第13回	機能的脳神経外科、炎症性疾患	講義	
第14回	総復習	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	標準 脳神経外科学 第15版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床神経学Ⅱ	前川基継	2	2	前期	必修

◇講義概要

・変性疾患、脱髄疾患、認知症、末梢神経障害、筋疾患等について学ぶ

◇到達目標

・言語障害の原因となる、脳・神経疾患の特質がわかる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科学の復習	講義	
第2回	神経内科学総論	講義	
第3回	脱髄性疾患① 脱髄性疾患の概要、多発性硬化症と視神経脊髄炎の相違点を理解する	講義	
第4回	脱髄性疾患② 急性散在性脳脊髄炎その他の脱髄疾患について	講義	
第5回	感染症 頭蓋内感染症の復習とライム病など神経内科的感染症について	講義	
第6回	変性疾患① アルツハイマー型認知症など大脳皮質変性が主な疾患について	講義	
第7回	変性疾患② パーキンソン病など基底核の変性が主な疾患について	講義	
第8回	変性疾患③ 脊髄小脳変性症など小脳や脊髄の変性が主な疾患について	講義	
第9回	変性疾患④ 筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロンの変性が主な疾患について	講義	
第10回	神経筋接合部疾患 重症筋無力症とイートン・ランバート症候群の違いを理解する	講義	
第11回	末梢神経疾患 ギランバレー症候群など種々の末梢神経炎について	講義	
第12回	骨格筋疾患 筋ジストロフィーなど遺伝性筋疾患と炎症性筋疾患について	講義	
第13回	脳血管疾患、外傷性疾患、脳腫瘍等 各疾患のポイントを認識する	講義	
第14回	臨床神経学総復習	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	・イラストでわかる PT・OT・ST のための神経内科学 改訂2版 (メディカ出版)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
形成外科学	川上正良・桐田忠昭・山川延宏・堀田聡 柳生貴裕・原田雅幸	1	1	後期	必修

◇講義概要

形成外科学総論、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外傷、頭頸部外科手術にともなう変形・機能障害等について学ぶ。

◇到達目標

代表的な疾患とその治療法について理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当
第1回	顎発育の異常とその治療法	講義	川上正良
第2回	顎顔面外傷	講義	柳生貴裕
第3回	口唇裂口蓋裂	講義	山川延宏
第4回	顎変形症	講義	堀田聡
第5回	皮膚の構造と熱傷	講義	原田雅幸
第6回	皮膚の良性腫瘍、悪性腫瘍	講義	原田雅幸
第7回	口腔癌と口腔顎顔面再建	講義	桐田忠昭
第8回	試験	試験	川上正良

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	標準 形成外科学 第7版 (医学書院)
参考図書	器質性構音障害治療のポイント 口腔顎顔面領域の異常と言語障害 (医歯薬出版)
留意事項	予習・復習につとめること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床歯科医学	藤井智子 浜中康弘	1年	2	前期	必修

◇講義概要

顎口腔の構造と歯科・口腔外科疾患の特徴、病因および治療法の基本概念を理解し、言語聴覚士としての基礎知識を深める。

◇到達目標

1. 歯・口腔・顎・顔面の構造と機能を理解できる。
2. 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置の基本概念を理解できる。
3. 口腔・顎・顔面の損傷の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
4. 口腔・顎・顔面の炎症・感染症の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
5. 口腔・顎・顔面の嚢胞・腫瘍・類似疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
6. 口腔・顎・顔面の先天異常・発育異常の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
7. 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
8. 唾液腺疾患・顎関節疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
9. 口腔粘膜疾患の特徴と治療法の基本概念を理解できる。
10. 歯列不正と歯科矯正治療の基本概念を理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	第1章 1 歯・口腔・顎・顔面の形態と構造	講義	藤井
第2回	第1章-2 歯・口腔・顎・顔面の発生と発育 第1章-3 歯・口腔・顎・顔面の機能 第1章-4 口腔の診査法	講義	藤井
第3回	第3章-1 口腔・顎・顔面の先天異常	講義	藤井
第4回	第3章-2 口腔・顎・顔面の発育異常・損傷	講義	藤井
第5回	第3章-3 口腔・顎・顔面の炎症・感染症	講義	藤井
第6回	第3章-4 口腔・顎・顔面の嚢胞および類似疾患	講義	藤井
第7回	第3章-9 口腔粘膜疾患	講義	藤井
第8回	歯科矯正学	講義	浜中
第9回	第3章-6 唾液腺疾患・8 顎関節疾患	講義	藤井
第10回	第3章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	藤井
第11回	第3章-5 口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患	講義	藤井
第12回	第3章-7 口腔・顎・顔面の神経系疾患、疼痛性疾患、心因性病態	講義	藤井
第13回	第4章-咀嚼・摂食・構音障害に対する歯科医学的治療法	講義	藤井
第14回	第7章-5 口腔疾患による構音障害 6 舌・口底切除・顎切除後の構音障害	講義	藤井
第15回	試験 (60分) 解説 (30分)	試験	藤井

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 医歯薬出版株式会社
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の正常機能を理解するために、呼吸器と循環器について、機能（生理学）と関連づけて構造（解剖学）を学習する。さらに、実習を通して呼吸循環機能の理解を深める。

◇到達目標

1. 呼吸・循環器系において、構造・疾病と関連づけて生理機能・病態生理を説明できる。
2. 呼吸・循環器系について理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸・循環器系とは？－なぜ、酸素が必要か？	講義	
第2回	呼吸器系の構造(1)－鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺	講義	
第3回	呼吸器系の構造(2)－胸郭、呼吸筋	講義	
第4回	呼吸生理学(1)－換気、外呼吸	講義	
第5回	呼吸生理学(2)－ガス交換、血液酸素解離曲線	講義	
第6回	呼吸生理学(3)－内呼吸、ガス運搬	講義	
第7回	呼吸生理学(4)－化学受容器、呼吸中枢	講義	
第8回	呼吸検査－呼吸曲線、努力呼吸曲線、フローボリューム曲線	講義	
第9回	循環器系(1)－心臓の構造	講義	
第10回	循環器系(2)－刺激伝導系、心周期、心電図	講義	
第11回	循環器系(3)－心臓血管、胎児循環	講義	
第12回	循環器系(4)－血圧、リンパ系	講義	
第13回	生理学実習(1)－血圧・心拍数の測定－基礎編	演習	
第14回	生理学実習(2)－血圧・心拍数の測定－応用編	演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (62 %)	□実技試験 (%)	■演習評価 (4 %)
	■小テスト (24 %)	■レポート (10 %)	□その他 (%)

教科書	「人体の構造と機能(1)解剖生理学」(ナーシンググラフィカ) 「イメージできる解剖生理学」(ナーシングサプリー)
参考図書	「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように努めて下さい。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ	中井弘征	1	2	前期	必修

◇講義概要

・聴器の構造・機能・病態について理解するとともに、聴覚障害を病変部位別に分類しその特徴や鑑別診断の方法について学ぶ。
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚系の構造・機能を説明できる 2. 聴覚障害の原因疾患を説明できる。 3. 聴覚障害を病変部位別に分類し、その特徴を説明できる。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音とは、聴器の構造	講義	
第2回	聴器の構造：外耳（耳介、外耳道、鼓膜）	講義	
第3回	聴器の構造：中耳（鼓室の構造、耳小骨、耳管、乳突蜂巣）	講義	
第4回	聴器の構造：内耳（蝸牛の構造、膜迷路・骨迷路、コルチ器）	講義	
第5回	聴器の構造：内耳（イオンチャンネル、音情報の符号化） ：聴覚伝導路について（内耳から脳への情報伝達）	講義	
第6回	聴器の構造：伝音機構・感音機構、聴覚伝導路（情報処理と言語認識）	講義	
第7回	聴器の構造：前庭、半規管	講義	
第8回	[小テスト]、難聴の分類、オーディオグラム、伝音難聴	講義	
第9回	聴器の病態：伝音難聴（外耳・中耳の疾患）	講義	
第10回	聴器の病態：伝音難聴（中耳の疾患）②、感音難聴（概要）	講義	
第11回	聴器の病態：感音難聴（後天性の疾患）	講義	
第12回	聴器の病態：感音難聴（先天性の疾患）	講義	
第13回	聴器の病態：聴力の変動、後迷路性難聴、機能性難聴	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 20 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂4版（南山堂）
参考図書	病気がみえる vol.7・13（メディックメディア）、耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック第2版（学研）
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学IV	内海眞子	1	2	前期	必修

◇講義概要

生体内外の環境の変化に関与するための種々の機能がある。その機能のひとつでもある神経系（中枢神経系、末梢神経系）についての概要を学ぶ。

◇到達目標

1. 人体の生命を支えるためにどのように働いているかを知る。中枢神経系を詳細に理解習得する。
2. 人体の伝達作用を担当する神経系について理解習得する。末梢神経系（脊髄神経、脳神経、自律神経）について詳細に理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	神経系（中枢神経系、末梢神経系）の総論	講義	
第2回	髄膜と脳室系	講義	
第3回	中枢神経系 A 脊髄	講義	
第4回	B 脳幹（1）延髄・橋	講義	
第5回	脳幹（2）橋・中脳	講義	
第6回	C 小脳	講義	
第7回	D 大脳（1）間脳・終脳（大脳半球）	講義	
第8回	大脳（2）終脳（大脳半球）	講義	
第9回	E 神経路	講義	
第10回	末梢神経系 A 脊髄神経（1）頸神経・胸神経	講義	
第11回	脊髄神経（2）腰神経・仙骨神経・尾骨神経	講義	
第12回	B 脳神経（1）嗅神経～三叉神経	講義	
第13回	脳神経（2）外転神経～舌下神経	講義	
第14回	C 自律神経系	講義	
第15回	試験	講義	

評価方法	■試験（80%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（20%）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学 I	岡崎良仁	1	2	前期	必修

◇講義概要

様々な心の問題について学び、当事者の気持ちについて考え、どのような心理的援助ができるか考える。
また、臨床心理学の基本的な理論について学ぶ。

◇到達目標

様々な心の問題について理解する。
心の問題を援助する際に必要となる基本的な概念を知る。
心の問題を援助する際の基本的な態度を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	臨床心理学とは	講義・演習	
第2回	こころの問題（1） 問題の分類と概説	講義	
第3回	こころの問題（2） 発達障害	講義	
第4回	こころの問題（3） 統合失調症	講義	
第5回	こころの問題（4） うつ病	講義	
第6回	こころの問題（5） 人格障害	講義	
第7回	こころの問題（6） 神経症	講義	
第8回	こころの問題（7） こころと体の問題	講義	
第9回	基礎理論（1） フロイトの精神分析① 人格理論	講義	
第10回	基礎理論（2） フロイトの精神分析② 発達理論	講義	
第11回	基礎理論（3） 精神分析理論の展開	講義	
第12回	基礎理論（4） エリクソンンの発達理論	講義	
第13回	基礎理論（5） ロジャーズの来談者中心療法①人格理論	講義	
第14回	基礎理論（6） ロジャーズの来談者中心療法②ロールプレイ	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版 （ナカニシヤ出版）
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習では班に分かれてグループディスカッションを行います。予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学Ⅱ	岡崎良仁	1	2	後期	必修

◇講義概要

人の多種多様な心のあり様に多角的に取り組めるように、様々な心理療法を学ぶ。また、心のあり様を把握するための様々な心理アセスメントに触れ、人の心のあらわれ方への理解を深める。

◇到達目標

各心理療法の特徴と違いを概説することができる。
各アセスメントの手続きと解釈について理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	心理療法（1） 遊戯療法	講義	
第2回	心理療法（2） 行動療法	講義	
第3回	心理療法（3） 認知療法	講義	
第4回	心理療法（4） 芸術療法	講義	
第5回	心理療法（5） 家族療法・集団心理療法	講義	
第6回	心理アセスメント（1） 発達検査	講義	
第7回	心理アセスメント（2） 知能検査① WAIS-Ⅲ（知能の定義）	講義・演習	
第8回	心理アセスメント（3） 知能検査② WAIS-Ⅲ（下位項目）	講義・演習	
第9回	心理アセスメント（4） 類型論と特性論	講義	
第10回	心理アセスメント（5） 人格検査（質問紙法）	講義・演習	
第11回	心理アセスメント（6） 人格検査（作業検査法）	講義・演習	
第12回	心理アセスメント（7） 人格検査（投影法）① 描画法・SCT	講義・演習	
第13回	心理アセスメント（8） 人格検査（投影法）② TAT・P-Fスタディ・ロールシャッハテスト	講義・演習	
第14回	心理アセスメント（9） その他の心理検査	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	心とかかわる臨床心理 第3版 (ナカニシヤ出版)
参考図書	適宜紹介します。
留意事項	演習ではグループに分かれ、実際の検査に触れながら学びます。予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学 I	山岸 直美	1	2	前期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で乳幼児期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

各発達段階における特徴を把握し、自分や他者の具体的な姿と関係づけることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション～発達の一般的な特徴～	講義	
第2回	発達の規定要因	講義	
第3回	発達研究法	講義	
第4回	主な発達理論① ピアジェ	講義	
第5回	主な発達理論② フロイト	講義	
第6回	主な発達理論③ エリクソン	講義	
第7回	胎児期	講義	
第8回	乳児期① ～発達段階・運動発達～	講義	
第9回	乳児期② ～知覚・認知の発達～	講義	
第10回	乳児期③ ～社会性～	講義	
第11回	乳児期④ ～愛着～	講義	
第12回	幼児期① ～発達段階～	講義	
第13回	幼児期② ～感情の発達・自己意識の発達～	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	特になし、プリントを配布。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	授業の最後に、前回授業内容に関する小テストを実施。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生涯発達心理学Ⅱ	山岸 直美・玉木啓之	1	2	後期	必修

◇講義概要

発達を生まれてから死ぬまでの一生における変化として捉え、基本的な発達理論の概要を把握した上で幼児期～老年期における特徴についての理解を深める。

◇到達目標

各発達段階における特徴を把握し、自分や他者の具体的な姿と関連づけることができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	幼児期③ ～ことば～	講義	山岸
第2回	幼児期④ ～遊び～	講義	山岸
第3回	幼児期⑤ ～仲間関係と他者の心の理解～	講義	山岸
第4回	児童期① ～発達段階～	講義	山岸
第5回	児童期② ～遊び・仲間集団・道徳性の発達～	講義	山岸
第6回	児童期までのまとめ	講義	山岸
第7回	青年期① ～発達段階～	講義	玉木
第8回	青年期② ～アイデンティティ～	講義	玉木
第9回	青年期③ ～対人関係～	講義	玉木
第10回	成人期① ～発達段階～	講義	玉木
第11回	成人期② ～中年期～	講義	玉木
第12回	老年期① ～発達段階～	講義	玉木
第13回	老年期② ～知能・記憶～	講義	玉木
第14回	老年期③ ～心理的变化～	講義	玉木
第15回	試験	試験	玉木

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	特になし、プリントを配布。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	授業の最後に、前回授業内容に関する小テストを実施。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
学習・認知心理学	木村洋太・河野裕子	1	3	前期	必修

◇講義概要

心理学は人について理解する学問である。そのため、私たち人間が日々の生活で行なっている知覚・行動・思考・感情などの全て、またそれらを支える心や身体のメカニズムは全て心理学の領域と言える。本講義では、その切り口の多さ、当たり前すぎて気づくことさえない心理のメカニズムについて、広くその概要を学んでいく。対人理解にとって、またSTにとってなぜ心理学が必要なのか、意識と理解を深める。

◇到達目標

人間そのもの、そして人間の行為を支える心と身体のメカニズムについて、つながりを意識しながら深く理解することができる。具体的には、見る・聞く・感じるという最も根幹の感覚知覚機能、覚える・推論する・問題解決などの高次な認知機能、そして断片的な手がかりから他者を判断してしまう対人認知の癖まで広く理解する。また、人の行動をより望ましい方向に導くために、条件付けを元にする学習理論を日常に応用させながら、人の行動の仕組みを深く考察できることなどを目的とする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考	担当
第1回	記憶の分類	講義	認知心理学	木村
第2回	記銘法（精緻／体制化／生成）と記憶の検査法	講義	認知心理学	木村
第3回	忘却（記憶の変容／偽りの記憶）、感情と記憶	講義	認知心理学	木村
第4回	潜在記憶と健在記憶（プライミングとネットワークモデル）	講義	認知心理学	木村
第5回	古典的条件付け（汎化、消去、実験神経症）	講義	学習心理学	木村
第6回	オペラント条件付け（強化と罰様々な学習、試行錯誤、洞察、弁別）	講義	学習心理学	木村
第7回	オペラント条件付け（強化スケジュール、自己強化）	講義	学習心理学	木村
第8回	社会的学習（模倣、代理強化、社会的学習理論）	講義	学習心理学	木村
第9回	形（2D）の知覚と立体（3D）の知覚	講義	知覚心理学	木村
第10回	色知覚と網膜の仕組み（解剖、視細胞の仕組み）	講義	感覚知覚心理学	木村
第11回	感覚の種類と感覚可能範囲、閾値、順応	講義	感覚知覚心理学	木村
第12回	感覚の法則	講義	感覚知覚心理学	木村
第13回	問題解決（問題空間と知識の役割、解決方略）	講義	認知心理学	木村
第14回	推論（演繹と帰納）と概念（概念獲得と発達、知識）	講義	認知心理学	木村
第15回	空間認知（心的回転、空間地図、整列効果）	講義	社会心理学	木村
第16回	対人認知（印象形成、対人魅力）	講義	社会心理学	木村
第17回	動機付け（内発的動機、外発的動機）	講義	教育心理学	木村
第18回	技能学習（高原現象、知覚運動協応、転移）補足事項	講義	学習心理学	木村
第19回	試験	試験		木村

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

第20回	まとめ① (感覚・知覚)	講義		河野
第21回	まとめ② (学習)	講義		河野
第22回	まとめ③ (記憶)	講義		河野
第23回	まとめ④ (思考・知識)	講義		河野
評価 方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (20 %) □レポート (%) □その他 (%)			

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施するので、復習しておくこと。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理測定法	木村洋太	1	2	前期	必修

◇講義概要

心理学で扱う様々な心の機能を知るためには、それをどうにかして目に見える形に表わさなければならぬ。そのための様々な技法が心理測定法である。本講義では、測定したい心の内容に合わせて開発された様々な測定法の決まりや特徴を座学として学習する。また、測定した心の機能を客観的なデータ（心の特徴）として提示するために、そのデータのまとめ方や論拠のたて方などを心理統計として学習する。

◇到達目標

心の機能に応じて開発された種々の測定法の原理や特徴を熟知し、それぞれを説明することができる。測定したデータを客観的に分析・解釈するための統計分析の方法を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（心理測定とは、心理統計とは）	講義	
第2回	実験計画法（従属変数、独立変数、剰余変数、交絡、参加者計画）	講義	
第3回	記述統計その1（代表値と散布度）	講義	
第4回	記述統計その2（尺度水準）	講義	
第5回	2変数のまとめ方（相関分析の特徴と回帰分析）	講義	
第6回	推測統計その1（母集団、標本、統計的仮説検定の考え方）	講義	
第7回	推測統計その2（様々な分析手法とその選択）	講義	
第8回	精神物理学的測定法（調整、極限、恒常、適応法）と信号検出理論	講義	
第9回	信頼性と妥当性を見極め	講義	
第10回	検査法（項目分析と検査の標準化）	講義	
第11回	調査法（質問紙法）の注意点	講義	
第12回	単一尺度構成法（直接法と間接法）	講義	
第13回	多次元尺度構成法（SD法とMDS）	講義	
第14回	多変量解析	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（80%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（20%）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	特になし、プリントを配布する
参考図書	授業中に、適宜紹介する
留意事項	指示のない限り、毎授業、授業の最初にこれまでの学習内容について小テストを実施する

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語学	森 若葉	1	2	後期	必修

◇講義概要

言語学の主要分野について、わかりやすい例を用いながら概説を行う。

◇到達目標

言語学の基礎的知識を確実に身につけ、国家試験の言語学分野の問題に対応する力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	世界の言語と文字－言語の多様性、言語の特性	講義	
第2回	音韻論（1）－音素と異音、最小対	講義	
第3回	音韻論（2）－相補分布、音変化	講義	
第4回	形態論（1）－形態素、語と接辞	講義	
第5回	形態論(2)－異形態、語形成	講義	
第6回	日本語の特徴(1)－概略、敬語	講義	
第7回	日本語の特徴(2)－授受表現・書記体系	講義	
第8回	日本語の特徴(3)－まとめ	講義	
第9回	統語論(1)－文法範疇	講義	
第10回	統語論(2)－直接構成素分析	講義	
第11回	統語論(3)－統語構造	講義	
第12回	統語論(4)－統語構造	講義	
第13回	統語論(5)－まとめ	講義	
第14回	試験・意味論・語用論	試験・講義	
第15回	社会言語学・復習	講義	

評価方法	■試験（ 85 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 15 %） □レポート（ %） □その他（ %）

教科書	なし。資料を毎講義時に配布。
参考図書	斎藤 純男『日本語音声学入門』、佐久間 淳一 『言語学基本問題集』 研究社
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声学	大和シゲミ・河野裕子	1	3	前期	必修

◇講義概要

自分や他者の発音を観察することを通じて、発音に関する基礎的な知識と技術を身につける。その知識と技術は、発音上の問題点を適切に指摘し、訓練や指導を行っていくための土台となる。

◇到達目標

- (1)自分や他者によって発せられた音声を観察し、その特徴が説明できる
 (2)国際音声記号の表が活用でき、国際音声記号による表記が理解できる
 (3)日本語音声の特徴が説明できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	(はじめに1) 発音のしくみ	講義・演習	大和
第2回	(// 2) 音声器官と音声記号	講義・演習	大和
第3回	(// 3) 単音の産出と分類	講義・演習	大和
第4回	(小さな単位1) 破裂音・鼻音	講義・演習	大和
第5回	(// 2) ふるえ音・はじき音・摩擦音(前半)	講義・演習	大和
第6回	(// 3) 摩擦音(後半)・接近音	講義・演習	大和
第7回	(// 4) その他の記号・非肺気流の子音	講義・演習	大和
第8回	(// 5) 二重構音・二次的構音・その他	講義・演習	大和
第9回	(// 6) 母音	講義・演習	大和
第10回	(// 7) 現代共通日本語の単音(1) 五十音図のかな	講義・演習	大和
第11回	(// 8) 現代共通日本語の単音(2) 撥音・促音など	講義・演習	大和
第12回	(大きな単位1) 音節とモーラ	講義・演習	大和
第13回	(// 2) アクセント1ー共通語アクセントの性質	講義・演習	大和
第14回	(// 3) アクセント2ー共通語アクセントの規則性	講義・演習	大和
第15回	(// 4) イントネーション	講義・演習	大和
第16回	(// 5) プロミネンス	講義・演習	大和
第17回	(おわりに1) 音素論	講義・演習	大和
第18回	(// 2) 音声連続、構音の観察	講義・演習	大和
第19回	試験・解説	試験・講義	大和
第20回	日本語の語音・国際音声記号 (IPA) のまとめ	講義	河野
第21回	日本語の子音の音声表記① (調音点、調音法) のまとめ	講義	河野
第22回	日本語の子音の音声表記② (音源、半母音) のまとめ	講義	河野
第23回	日本語の母音の音声表記のまとめ	講義	河野

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

評価方法	■試験 (60 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (40 %)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	斎藤純男著『日本語音声学入門 改訂版』三省堂
参考図書	授業中に指示する。
留意事項	学習した音声について繰り返し発音する練習をし、自分の中で何が起きているかを実感できるようにしてください。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音響学	太田公子	1	2	前期	必修

◇講義概要

音声分析に必要な音声理論と音響音声学の基礎を学ぶ。

◇到達目標

音声の音響的特徴を科学的に説明できるようにする。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音の物理的側面（1）音の発生、音の伝わり方	講義	
第2回	音の物理的側面（2）純音、複合音、周波数、位相、振幅、波長、音速	講義	
第3回	音の物理的側面（3）周期音と非周期音	講義	
第4回	音の物理的側面（4）弦の振動、回折、ドップラー効果	講義	
第5回	音の物理的側面（5）デシベルについて	講義	
第6回	音の物理的側面（6）聴力レベル、感覚レベル、音の強さ	講義	
第7回	音の物理的側面（7）スペクトル	講義	
第8回	音声生成の音響理論（1）音の聞こえ、声が出るしくみ	講義	
第9回	音声生成の音響理論（2）音源フィルタ理論	講義	
第10回	音声生成の音響理論（3）サウンドスペクトログラム	講義	
第11回	音声の音響分析（1）音声のデジタル分析の基礎	講義	
第12回	音声の音響分析（2）音声の分析方法	講義	
第13回	総復習	小試験・講義	
第14回	音声の音響分析（3）音声分析と考察	演習	
第15回	試験・解説	試験・講義	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	■演習評価（ 10 %）
	■小テスト（ 10 %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	言語聴覚士の音響学入門 2訂版（海文堂）
参考図書	言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）
留意事項	

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
聴覚心理学	田中里弥	1	1	後期	必修

◇講義概要

物体の振動で発生した「音」は、空気などを伝わり耳に届いた後、聴覚系の機能により大きさ・高さ・音色・音源の位置・音源の数などを知覚することで、総合的な音や音声の認識へとつながる。本講義ではさまざまな音のデモを実際に聞きながら、耳から入った音がそれぞれどのように知覚されるかを学ぶ。

◇到達目標

音波が耳から脳に到達するまでの間に、聴覚器官によってどのような処理が行われているか、物理的な音波の情報が聴覚によってどのような音の情報になるのかを理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音響学と聴覚の復習（音の性質と聴覚経路）	講義	
第2回	音の大きさの知覚（ラウドネス、聴力レベル、補充現象等）	講義	
第3回	音の高さの知覚（ピッチ、メル尺度、ミッシングファンダメンタル等）	講義	
第4回	音色と音声の知覚（ラフネスとシャープネス、フォルマント等）	講義	
第5回	両耳聴と音源定位（両耳間時間差・レベル差、聴覚仮想空間等）	講義	
第6回	聴覚フィルタとマスキング（臨界帯域、聴覚フィルタ等）	講義	
第7回	環境と聴覚・まとめ（聴覚の情景分析、国家試験問題分析等）	講義	
第8回	試験・補講（質問への回答、その他のトピックス解説）	試験・講義	

評価方法	■試験（70%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（30%）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	言語聴覚士のための音響学（医歯薬出版）、プリント配布
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達学	永安 香	1	1	前期	必修

◇講義概要

定型発達児の言語発達を学ぶ。 言語獲得の仕組み、各年齢における言語の特徴を学ぶ。

◇到達目標

各年齢における言語の特徴を説明できる。 定型発達児の言語発達の道程を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	言語発達の概要	講義	
第2回	言語獲得理論・前言語期の発達	講義	
第3回	前言語期の発達	講義	
第4回	語彙獲得期の発達	講義	
第5回	幼児前期の発達	講義	
第6回	幼児後期の発達	講義	
第7回	学童期の発達・読み書きの発達	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100%) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	予習・復習につとめること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会保障制度	藤原一秀	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会保障制度(年金・医療・福祉)が具体的にどのように国民生活の安定につながっているか学ぶ。

◇到達目標

現行の法律・制度をその経緯を含めて理解する
 様々な障害者の困難さを理解し、その支援に適した法律・制度・技術を選択できるようにする

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	社会保障と社会福祉	講義	
第2回	社会保障の体系と範囲	講義	
第3回	社会保障を構成する各制度	講義	
第4回	社会福祉を構成する各法規	講義	
第5回	障害者に関する施策と実施体制	講義	
第6回	社会福祉援助技術	講義	
第7回	社会保障の実施体制	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	各講義で配布
参考図書	
留意事項	予習・復習につとめること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論	田中 薫・野上 尚克	1	1	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・「リハビリテーション＝訓練」ではないことを、語源にさかのぼって示し、リハビリテーション分野について説明する。 ・いくつかの経験をもとに、障害とは、ということを考えさせる
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの分野には何があるかがわかる ・法律等によっても、障害者の範囲が変わることがわかる ・自身の障害観、リハビリテーション観がもてる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションとは？ 障害とは？ ICF	講義	田中
第2回	法律から見た障害者とは？ 医療リハとは？：変遷。急性期・回復期・生活期の対応	講義	田中
第3回	診療報酬・介護報酬からみたリハ、・リハで遭遇する神経疾患	講義	田中
第4回	教育リハとは？：障害児教育史、特殊教育から特別支援教育へ	講義	田中
第5回	職業リハとは？：歴史、枠組み、雇用促進制度	講義	田中
第6回	地域リハとは？：変遷、地域包括リハ、訪問リハ	講義	野上
第7回	社会リハとは？：総合支援（自立支援、環境アクセス）、欠格条項	講義	田中
第8回	試験	試験	田中

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	・自作資料
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医療福祉教育・関係法規	須貝 愛子	1	1	後期	必修

◇講義概要

言語聴覚法及びその他の関係する法律を学ぶ
福祉制度・教育制度について学ぶ。

◇到達目標

言語聴覚士法について説明できる。
医療・福祉制度やそれに関する制度について理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	法律とは 医療・福祉に関する法律	講義	
第2回	言語聴覚士法について	講義	
第3回	医師法・医療法について	講義	
第4回	医療制度 診療報酬	講義	
第5回	福祉制度全般について	講義	
第6回	障害者関連法	講義	
第7回	退院支援について～MSWの視点から～	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験 (100%)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	配布資料
参考図書	言語聴覚士テキスト (医歯薬出版株式会社)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害概論 I	専任教員・田中薫	1	2	前期	必修

◇講義概要

<p>基礎科目と専門科目の関係性を学ぶ。 言語聴覚士として全体的な概念を学ぶ。 (歴史・各障害の知識等)</p>

◇到達目標

<p>基礎科目・専門科目の専門用語を説明できる。 言語聴覚士の仕事内容をイメージできる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	人体の不思議 これから学ぶ項目を知る	講義	玉木
第2回	自分の身体を知る 自分の身体を描く	講義	玉木
第3回	脳の仕組みと働き	講義	河野
第4回	各種障害の位置づけ 基礎科目がどう専門につながるか	講義	河野
第5回	言語聴覚士の歴史	講義	田中
第6回	倫理 リスク管理	講義	田中
第7回	記録、訓練カルテの記録	講義	田中
第8回	記録演習	講義・演習	田中
第9回	評価と分析 記録の方法	講義	田中
第10回	コミュニケーションの実践	講義	野上
第11回	インタークでのかかわり方	講義	田尾
第12回	摂食運動の自己分析	講義	板橋
第13回	嚥下の情報収集とかかわり方	講義	田尾
第14回	障がい体験をしよう	講義	板橋
第15回	試験	試験	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学 I	野上尚克、上田健志	2	2	前期	必修

◇講義概要

ディスカッションを通して(グループ内、グループ間)を通して、知識や気づきを増やし、アウトプットの力をつける。
また発表にあたって、思考を纏める力をつける。

◇到達目標

- ・ディスカッションが行えるようになる。 ・症例報告書の作成が可能になる。
- ・診断(評価・考察)から訓練の立案までが可能となる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第2回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第3回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第4回	脳画像の見方Ⅰ 脳画像の基礎	講義	上田
第5回	脳画像の見方Ⅱ 撮影方法からよむ、脳画像上の同定	講義	上田
第6回	脳画像の見方Ⅲ 脳疾患を知る、治療、臨床への活かし方	講義	上田
第7回	脳画像の見方Ⅳ 脳疾患を知り、治療、臨床へ活かす	試験	上田
第8回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第9回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第10回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第11回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第12回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第13回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第14回	症例検討(グループディスカッション) 発表・解説	講義	野上
第15回	試験(症例報告書の作成)	試験	野上

評価方法	■試験(100%)	□実技試験()%	□演習評価()%
	□小テスト()%	□レポート()%	□その他()%

教科書	1年生で使用した教科書・資料
参考図書	適宜紹介
留意事項	ディスカッションのグループは症例毎に変更

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語聴覚障害診断学Ⅱ	玉木啓之・山岸直美・田尾史朗 板橋美和・野上尚克	2	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・定型発達児の発達段階を学ぶ。 ・小児の言語発達障害児の分析評価を学ぶ。 ・初期評価の実技を学ぶ。

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・定型発達児の発達段階を説明できるようになる。 ・小児の言語発達障害児の検査・分析評価ができるようになる。 ・対象者（小児・成人）への初期評価におけるかかわりができるようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	子どもの発達を探る 発達表を作成する	講義	
第2回	発達表の内容を学ぶ	講義	
第3回	子どもの評価を行う 事例:ダウン症候群(内容・反応に分け表記する)	講義	
第4回	子どもの評価を行う 事例:ダウン症候群 (考察を表記する)	講義	
第5回	子どもの評価を行う 事例:自閉症スペクトラム障害(内容・反応に分け表記する)	講義	
第6回	㊦ 半側空間無視(USN)を診る	講義/演習	
第7回	ことばかけの方法 ①(発達段階による違いを知る)	講義/演習	
第8回	㊦ 摂食嚥下評価 MASAを学ぶ	講義/演習	
第9回	ことばかけの方法 ②(大人側の要因に気づく)	講義/演習	
第10回	検査結果の読み解き方(主にWISC)	講義/演習	
第11回	障害特性を知る ①(言語の四側面に着目する)	講義/演習	
第12回	評価診断事例分析(エピソードから分析を行う)	講義/演習	
第13回	障害特性を知る ②(ディスコミュニケーションとなる要因に気づく)	講義/演習	
第14回	事例で学ぶ ① 評価から障害の鑑別診断を行う * 口頭試問有	講義/演習	
第15回	事例で学ぶ ② 訓練プランを立案する * レポート	講義/演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (70 %) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (口頭試問 30 %)
------	---

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 (医学書院)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症Ⅰ-1	野上尚克、専任教員	1	2	前期	必修

◇講義概要

言語様式(話す、聴く、読む、書く)や様々な失語症候群の症状、病巣について理解できる。
--

◇到達目標

失語症の症状を理解し、鑑別が可能となる基礎を作る。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	失語症について 大脳と言語野 原因疾患	講義	野上
第2回	言語の神経基盤・言語領域の血管支配	講義	野上
第3回	失語症の症状理解Ⅰ	講義	野上
第4回	失語症の症状理解Ⅱ 言語症状	講義	野上
第5回	失語症の症状理解Ⅲ 近縁症状	講義	野上
第6回	失語症候群についてⅠ ブローカ失語	講義	野上
第7回	失語症候群についてⅡ ウェルニッケ失語	講義	野上
第8回	失語症候群についてⅢ 伝導失語、健忘失語、全失語	講義	野上
第9回	失語症候群についてⅣ 超皮質性失語	講義	野上
第10回	失語症候群についてⅣ 交叉性失語、皮質下性失語	講義	野上
第11回	失語症候群についてⅤ 純粋型失語①	講義	野上
第12回	失語症候群についてⅥ 純粋型失語②	講義	野上
第13回	失語症候群についてⅦ 原発性進行性失語	講義	野上
第14回	失語症候群の復習	講義	野上
第15回	試験	講義	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	失語症学 第3版 (医学書院) 失語症言語治療の基礎 (診断と治療社)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症 I-2	野上尚克、専任教員	1	2	後期	必修

◇講義概要

失語症の定義、症状と症候群、診断・評価、言語訓練について学ぶ。

◇到達目標

- ・前期の学びを生かし、分析や評価が可能になることを目指す。
- ・障害にあった訓練(リハビリテーション)を考える。
- ・専門用語を適切に用い言語症状を記録し、サマリーが書けるようになることを目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	流暢性についての理解を深める。	講義	野上
第2回	情報収集・スクリーニングテスト。	講義・演習	野上
第3回	失語症における鑑別検査や掘り下げ検査の目的・内容の理解。	講義	野上
第4回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(1) 「聞く」	講義・演習	野上
第5回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(2) 「話す」	講義・演習	野上
第6回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(3) 「読む」	講義・演習	野上
第7回	SLTA(標準失語症検査)を理解し実践する(4) 「書く」「計算」	講義・演習	野上
第8回	SLTA の分析(1) 項目を比較し解釈する。	講義	野上
第9回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(1)	講義	野上
第10回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(2)	講義	野上
第11回	認知神経心理学モデルを知り解釈する(3)	講義	野上
第12回	SLTA の分析(2) 項目を比較し解釈する。	講義	野上
第13回	評価をまとめサマリーを作成する(1) 症例をもとに手順を説明	講義	野上
第14回	評価をまとめサマリーを作成する(2) VTRより記録	講義	野上
第15回	試験	講義	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	・失語症学 第3版(医学書院) ・失語症言語治療の基礎(診断と治療者) ・標準失語症検査マニュアル第2版(新興医学出版)・なるほど失語症の評価と基礎(金原出版)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
失語症Ⅱ	野上尚克・田中薫・前田公子・小瀧弘征・道上千智・霜村智一・松本紀子・専任教員	2	4	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・VTRや各種サンプル、先生方や当事者の話から、評価から訓練の実際の流れを学ぶ

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・各種検査を理解し訓練の目的が分かる ・各時期の対応がわかる ・STの活躍の場を知る ・データをまとめて、客観的に症状メカニズムが考察できる ・STの役割を知る ・患者様の問題点をICFで整理し、その他の情報とあわせて、目標を設定し、訓練計画が立案できる ・適切な用語・文章でレポート（症例報告）が作成できる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	失語症のおさらい、小児失語	講義	野上
第2回	失語症のおさらい、小児失語	講義・演習	野上
第3回	インタビュー、スクリーニング (STAD、青丹版など) SLTAの記載 (動画から K・T様)	講義・演習	野上
第4回	SLTA演習	演習	野上
第5回	神経心理学史：失語分類、検査・訓練史	講義	田中
第6回	症例検討 (SLTAの視点から)	講義・演習	野上
第7回	鑑別・掘り下げ検査を理解する① (WAB・重度失語症検査・CADL)	講義・演習	野上
第8回	鑑別・掘り下げ検査を理解する② (TLPA・SALA・R-STA)	講義・演習	野上
第9回	鑑別・掘り下げ検査を理解する③ (SLTA-ST・標準抽象語理解力検査・トークンテスト モーラ分解抽出検査)	講義・演習	野上
第10回	デイリー作成 (SOAP 症例①と②につながるように)	講義・演習	野上
第11回	症例報告書、デイリー	講義・演習	野上
第12回	評価サマリーの作成	講義・演習	野上
第13回	検査の選定 (症例①)	講義・演習	野上
第14回	報告書の作成 (症例①をもとに)	講義・演習	野上
第15回	検査の選定 (症例②)	講義・演習	野上
第16回	報告書の作成 (症例②をもとに)	講義・演習	野上
第17回	失語症の訓練①	講義・演習	野上

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

第18回	失語症の訓練②	講義・演習	野上
第19回	失語症の訓練③	演習	野上
第20回	訓練演習（ロールプレイ）①	演習	野上
第21回	訓練演習（ロールプレイ）②	演習	野上
第22回	訓練演習（ロールプレイ）③	演習	田中
第23回	さくらの会との交流	講義	野上・前田 当事者
第24回	振り返り（フリートークからの評価・ビデオ）	講義	野上
第25回	急性期の失語症者への言語聴覚士のかかわり	講義	小瀧
第26回	回復期の失語症者への言語聴覚士のかかわり	講義	道上
第27回	生活期（慢性期）の失語症者への言語聴覚士のかかわり	講義	霜村
第28回	失語症友の会における言語聴覚士のかかわり	講義	松本
第29回	就労支援における言語聴覚士へのかかわり	講義	前田
第30回	試験	講義	野上

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準言語聴覚障害学 失語症（医学書院） ・失語症言語治療の基礎（診断と治療社） ・なるほど失語症の評価と治療（金原出版） ・標準失語症検査マニュアル第2版（新興医学出版）
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学 I	板橋美和、野上尚克、田尾史朗	1	2	前期	必修

◇講義概要

・高次脳機能障害を学び、各疾患の理解を深め言語聴覚士に必要な基礎知識を得る。
--

◇到達目標

・背景症状と高次脳機能障害が鑑別できる。 ・各検査の目的を理解し、適切な検査が選択できる。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	高次脳機能障害とは	講義	野上
第2回	神経心理学的な考え方と言語聴覚士の役割	講義	野上
第3回	行為・動作の障害Ⅰ：古典的な失行の考え方	講義	野上
第4回	行為・動作の障害Ⅱ：失行と関連障害のとらえ方とリハビリテーション	講義	野上
第5回	行為・動作の障害Ⅲ：標準高次動作性検査	講義	野上
第6回	失認Ⅰ： 各感覚系の認知障害（視覚・聴覚・触覚）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第7回	失認Ⅱ： その他の認知障害（相貌・身体・病態）の原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第8回	失認Ⅲ：標準高次視知覚検査（VPTA）	講義	板橋
第9回	失認Ⅳ：標準高次視知覚検査（VPTA）	講義	板橋
第10回	視空間認知障害（半側空間無視）：原因仮説、原因疾患、病巣、症状、訓練	講義	板橋
第11回	視空間認知障害の検査：半側空間無視の検査	講義	野上
第12回	視視空間認知障害（構成障害、地誌的見当識障害など）： 原因仮説、原因疾患、病巣、症状、訓練視空間認知障害の検査	講義	野上
第13回	脳外傷による高次脳機能障害	講義	田尾
第14回	認知コミュニケーション障害	講義	田尾
第15回	試験	講義	野上

評価方法	■試験（100%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版（医学書院）
参考図書	高次脳機能障害学 第3版（医歯薬出版株式会社）
留意事項	予習復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
高次脳機能障害学Ⅱ	板橋美和、野上尚克、田尾史朗	1	2	後期	必修

◇講義概要

神経心理学のリハビリテーション、様々な神経心理症状の特徴と鑑別診断、治療等について学ぶ。

◇到達目標

高次脳機能障害の病態を知り鑑別が可能になる。
各種神経心理検査の目的を理解し、適切な検査の選択や評価が可能になることを目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	記憶障害Ⅰ 記憶の過程、分類（神経学的・心理学的）を知る。	講義	板橋
第2回	検査：三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査、 Rey 複雑付図形	講義・演習	板橋
第3回	記憶障害Ⅱ 原因疾患、病巣、症状 (健忘：前向性・逆行性、一過性全健忘、作話など)を知る。	講義	板橋
第4回	検査：WMSR、リバーミッド行動記憶検査	講義・演習	板橋
第5回	前頭葉症状Ⅰ 主要な高次脳機能障害	講義	野上
第6回	検査：CAT、CAS	講義・演習	野上
第7回	前頭葉症状Ⅱ 遂行機能障害の病巣、症状、訓練	講義	野上
第8回	検査：FAB、BADs	講義・演習	野上
第9回	前頭葉症状Ⅲ 行為・行動障害（本能性把握、道具の使用障害、人格・情動障害） 原因疾患、症状	講義	野上
第10回	前頭葉症状Ⅳ 評価とリハビリテーション	講義	野上
第11回	半球離断症候群の機序、症状の理解	講義	板橋
第12回	認知症の基本概念と分類	講義	田尾
第13回	認知症の評価 HDS-R、MMSE、MoCA-J、ADAS CDR、MN スケール、N-ADL	講義・演習	田尾
第14回	知能をはかり考える RCPM、コース立方体組み合わせテスト	講義・演習	田尾
第15回	試験	試験	田尾

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	標準高次脳機能障害学 第3版（医学書院）高次脳機能障害学 第3版（医歯薬出版）
参考図書	病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版 メディック・メディア
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害 I - 1	玉木啓之	1	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害の子どもたちの基本的な理解を目指す。 ・知的障害における言語・コミュニケーションの問題、諸側面の問題を理解する。
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害の定義や特徴を説明できる。 ・評価法、指導法を理解でき説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
1	オリエンテーション・言語発達障害とは	講義	
2	知的障害①定義	講義	
3	知的障害②定義と特徴	講義	
4	知的障害③医学的特徴	講義	
5	知的障害④言語とコミュニケーションの特徴	講義	
6	知的障害⑤認知の特徴	講義	
7	知的障害⑥ダウン症候群について	講義	
8	知的障害⑦ダウン症候群の歴史	講義	
9	知的障害⑧VTR分析	講義	
10	知的障害⑨評価と目標設定	講義	
11	知的障害⑩3連表記	演習	
12	発達検査：知的障害の検査	講義	
13	インテークについて	講義	
14	面談の実際	講義	
15	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (10%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	「言語発達障害学」医学書院 および 配布プリント
参考図書	
留意事項	予習・復習をすること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅱ	田中薫・田尾史朗・北野真奈美・釦持弥貴	2	2	前期	必修

◇講義概要

<p>小児の運動発達を学ぶ。脳性麻痺児・重度重複障害児の特性を理解し、アプローチ方法を学ぶ。 多職種によるアプローチの方法を学ぶ。</p>

◇到達目標

<p>脳性麻痺児の定義・特徴を説明できる。 重度重複障害児の特徴を説明できる。 脳性麻痺児のアプローチ方法を説明できる。</p>
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	脳性麻痺 定義、タイプ、原因、疫学、重度心身障害	講義	田中 5/12
第2回	脳性麻痺 原因	講義	田中 5/19
第3回	脳性麻痺 症状	講義	田中 5/26
第4回	正常運動発達	講義	田中 6/2
第5回	脳性麻痺の運動発達	講義	田中 6/15
第6回	摂食・嚥下の発達（正常・異常）	講義	田中 6/22
第7回	評価	講義	田中 6/29
第8回	オーラルコントロールについて	講義・演習	田尾 7/5
第9回	訓練・対応（運動機能、コミュニケーション、発声発語、摂食嚥下、AAC）	講義	田中 7/6
第10回	国家試験問題を用いて定義・支援等の総合的復習	講義	田尾 7/6
第11回	試験	試験	田尾 7/11
第12回	スイッチを使った作業療法の紹介	講義・演習	北野 7/13
第13回	スイッチを応用しコミュニケーション活動表出を拡充する	講義・演習	北野 7/13
第14回	特別支援学校における教育支援（取り組み）	講義	釦持 7/16
第15回	特別支援学校における学習面・食事指導・スピーチ等の支援	講義	釦持 7/16

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 80 % ） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 演習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 20 % ） <input type="checkbox"/> その他（ % ）
------	---

教科書	配布プリント
参考図書	言語発達障害学 （医学書院）
留意事項	

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害Ⅲ	村井敏宏・奥村智人	2	2	前期	必修

◇講義概要

小児の発達障害である「学習障害」、とりわけ「読み書き障害」は、発達性の高次脳機能障害とも言える。そのため、障害の背景要因及び脳機能との関連を理解し、言語聴覚士としてのアセスメント法・訓練法についての理解を深める。

◇到達目標

- ・学習障害について、教育的定義と医学的定義を理解する。
- ・教科学習の基礎となる、読み書きの困難について理解する。
- ・読み書きの困難の背景要因、アセスメント法、支援方策、指導教材の実際について知る。
- ・学習障害に関連する障害について理解を深める。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	LDの定義と診断基準	講義	村井
第2回	LD理解のための諸情報	講義	村井
第3回	LD児の言語・コミュニケーションの問題	講義	村井
第4回	算数障害	講義	村井
第5回	読み書き障害の基礎理解1(かな文字)	講義	村井
第6回	読み書き障害の基礎理解2(漢字)	講義	村井
第7回	読み書き障害のアセスメントと支援1(かな文字)	講義・演習	村井
第8回	読み書き障害のアセスメントと支援2(漢字)	講義・演習	村井
第9回	読み書き障害の分類と評価	講義	村井
第10回	学習につまずく子どもの見る力①(視機能とは)	講義	奥村
第11回	学習につまずく子どもの見る力②(実際の子どもの姿)	講義	奥村
第12回	合理的配慮とICT活用	講義	村井
第13回	特異的言語発達障害	講義	村井
第14回	総まとめ	講義	村井
第15回	試験及び解説	試験・講義	村井

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	配布プリント
参考図書	「言語発達障害学」医学書院
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
言語発達障害IV	川上有未	1	2	後期	必修

◇講義概要

自閉スペクトラム症について診断基準や特徴などの概要を学び、STとして評価・療育・支援をどのように行うのかについて考え理解を深める。

◇到達目標

1. 障害の捉え方について基本的理論の変遷と動向を知る
2. 自閉スペクトラム症について、用語、定義、特徴を知り、言語コミュニケーションの問題、諸側面の問題を理解する
3. 評価法、指導法など理解、説明することができ、STの役割を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発達障害の位置づけ、DSM-IVとDSM-5の違い	講義	
第2回	自閉症スペクトラムの概要、原因	講義	
第3回	自閉スペクトラムの特徴	講義	
第4回	自閉スペクトラムの特徴	講義	
第5回	年齢別に特徴を整理	講義	
第6回	支援の方法	講義	
第7回	療育の方法	講義	
第8回	ことばを育てるための配慮事項、合併	講義	
第9回	自閉スペクトラム症（知的な遅れがないタイプ）の概要	講義	
第10回	アスペルガー症候群の特徴	講義	
第11回	アスペルガー症候群の特徴	講義	
第12回	トレーニングの紹介、事例診断分析①	講義・演習	
第13回	事例診断分析②	講義・演習	
第14回	二次障害、合併、対応の方法	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	言語発達障害学 (医学書院)、配布プリント
参考図書	ADHD・高機能広汎性発達障害の教育と医療、言語聴覚士のための言語発達障害学 図解よくわかる自閉症
留意事項	予習・復習に努めること

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
音声障害	宮田 恵里	2	2	前期	必修

◇講義概要

- 1.喉頭の解剖および呼吸と発声の仕組みを学ぶ
- 2.音声障害の診断と評価方法を学ぶ
- 3.音声治療の適応および実際のアプローチ方法を学ぶ
- 4.音声外科と薬物療法および無喉頭音声について学ぶ

◇到達目標

喉頭の解剖および呼吸と発声について理解する。
 患者の病態から音声障害が生じている原因について理論的に説明を行い、適切な評価方法および治療法の選択、音声治療のアプローチ方法が考察出来るようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	声の特性・喉頭の解剖	講義	
第2回	発声と呼吸のしくみ	講義・演習	
第3回	音声障害の評価と診断(1)喉頭の観察・音声評価	講義	
第4回	音声障害の評価と診断(2) 自覚的評価・心理的側面の評価・その他の検査	講義	
第5回	音声障害疾患の分類(1) 器質的性音声障害	講義	
第6回	音声障害疾患の分類(2) 神経学的音声障害・機能性音声障害	講義	
第7回	音声治療の実際	講義	
第8回	間接訓練	講義	
第9回	症状対処的音声治療 声帯の緊張を変える訓練	講義・演習	
第10回	症状対処的音声治療 声の高さを変える訓練・声の強さを変える訓練	講義・演習	
第11回	包括的音声治療1 VFE	講義	
第12回	包括的音声治療2 LMRVT、アクセント法	講義	
第13回	音声外科と薬物療法	講義	
第14回	無喉頭音声・病態から考える音声治療	講義・演習	
第15回	試験・解説	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	言語聴覚療法シリーズ14 改訂 音声障害 建帛社 声をみる いちばんやさしい音声治療実践ハンドブック 医歯薬出版株式会社
参考図書	適宜紹介する
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害 I	赤井美貴子	1	2	後期	必修

◇講義概要

機能性構音障害について、講義と演習を併用して学び、STとして評価、訓練をどのようにして行うかについて、知識や理解の向上を目指す。

◇到達目標

- ・ 定型の構音発達を説明することができる。
- ・ 機能性構音障害とその他の構音障害の違いを説明することができる。
- ・ 検査内容を理解し、問題点をあげ、訓練目標・内容を立案することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	構音の仕組み	講義	
第2回	日本語の語音と音声表記	講義	
第3回	構音の発達	講義	
第4回	構音障害の定義、臨床の流れ	講義	
第5回	構音検査	講義	
第6回	評価（誤り音の種類）	講義	
第7回	評価（異常構音）	講義	
第8回	構音検査のまとめ、構音検査以外の検査	講義	
第9回	構音訓練の概要	講義	
第10回	構音訓練の進め方、家族指導	講義	
第11回	構音訓練の実際	講義	
第12回	構音検査の練習	演習・講義	
第13回	事例による演習（音声の聞き取り、評価）	演習・講義	
第14回	事例による演習（まとめ）、総復習	演習・講義	
第15回	試験、総まとめ	試験	

評価方法	■試験（80%） □実技試験（ %） ■演習評価（10%） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（構音絵カード 10%）
------	--

教科書	「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版（医学書院）」
参考図書	「改訂 機能性構音障害（建帛社）」 「特別支援教育における 構音障害のある子どもの理解と支援（学苑社）」
留意事項	

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅱ	板橋美和 田尾史朗	2	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ディサースリアの背景にある運動障害を説明する ・発声発語器官・からだの動きを触って評価・確認する
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・運動障害とは何かがわかる ・ディサースリア各タイプの特徴を説明できる ・発声発語に関わる各部位の運動機能を正確に検査できる ・発話明瞭度を上げる訓練の適応・方法がわかる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ディサースリアとは何か 定義と他のコミュニケーション障害の違い	講義	板橋
第2回	運動系の基礎理解と障害	講義	板橋
第3回	ディサースリアのタイプ 分類	講義	板橋
第4回	ディサースリアのタイプ 原因疾患	講義	板橋
第5回	タイプごとの病態特徴と重症度	講義	板橋
第6回	ディサースリアにおける評価と検査	講義	板橋
第7回	話しことばの評価： VTRをみて発話特徴抽出検査の記録、運動機能を推測	講義	板橋
第8回	発声発語器官の評価：標準ディサースリア検査①	講義・演習	田尾
第9回	発声発語器官の評価：標準ディサースリア検査②	講義・演習	田尾
第10回	発声発語器官の評価：標準ディサースリア検査③	講義・演習	田尾
第11回	運動機能の評価：標準ディサースリア検査プロフィールを読む	講義	田尾
第12回	訓練：治療の分類、目標、運動療法的アプローチ	講義	板橋
第13回	訓練：タイプ別、機構（器官）別	講義・演習	田尾
第14回	装具、AAC、気管切開への対応（カニューレについて）	講義	板橋
第15回	試験	講義	板橋

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	配布資料 ディサースリア臨床標準テキスト 第1版 西尾正輝 著／医歯薬出版株式会社 標準ディサースリア検査 新装版 西尾正輝 著／インテルナ出版 気管カニューレの種類とその使い分け（高研）
参考図書	病気がみえる7脳・神経 第2版 /メディックメディア
留意事項	予習、復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害Ⅲ	安並 佳菜	1	2	後期	必修

◇講義概要

器質性構音障害の中でも口腔・中咽頭癌術後の構音障害について学習する。序論では口腔・咽頭の解剖学の復習を行う。その後、舌口腔癌の治療法やリハビリテーション技術について座学での学習・実習を行い、当分野を体系的に理解していく。

◇到達目標

1.発話明瞭度の検査から再建術と機能回復、舌の切除型と言語成績、構音位置・方法などの構音成績を分析・考察できる。2.口腔・中咽頭癌切除後の構音障害に対して補綴的発話補助装置の適応・訓練方法などを提案できる。3.評価や訓練後の担当医への報告ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	口腔・中咽頭癌のリハビリテーション概論	講義	
第2回	口腔・顎・咽頭の形態と構造	講義	
第3回	口腔と言語機能	講義	
第4回	口腔ケア	講義	
第5回	軟組織・顎に発生する悪性腫瘍	講義	
第6回	口腔癌の手術	講義	
第7回	再建と機能回復・咀嚼障害	講義	
第8回	摂食・嚥下障害	講義	
第9回	構音障害	講義	
第10回	構音検査	講義	
第11回	症例検討：構音検査の分析	講義	
第12回	症例検討：発話明瞭度の分析、訓練目標の設定、訓練方法の検討	講義	
第13回	口腔癌のチームアプローチ	講義	
第14回	まとめ、癌のリハビリテーションについて	講義	
第15回	試験・解説	試験・講義	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 実技試験 (%)	<input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%)	<input type="checkbox"/> レポート (%)	<input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学—器質性構音障害— 医歯薬出版株式会社
参考図書	口腔・中咽頭がんのリハビリテーション*構音障害,摂食・嚥下障害* 医歯薬出版株式会社
留意事項	講義時間以外の質問は第1回講義でお伝えするメールアドレスにて受け付けます。 予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
構音障害IV	鷺見麻里・小松岳	2	2	前期	必修

◇講義概要

口蓋裂の言語臨床に必要な発声発語器官の障害について系統的に学ぶ。 出生から治療終了までの各時期の言語管理について学ぶ。
--

◇到達目標

治療チームの一員として、出生直後から患児と家族のサポートを行い、言語管理を行うことができるよう、知識と技術を習得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	口蓋裂治療の流れ	講義	鷺見
第2回	口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識	講義	鷺見
第3回	口蓋裂と類似疾患	講義	鷺見
第4回	口蓋裂言語 言語発達 共鳴の異常	講義	鷺見
第5回	構音障害	講義	鷺見
第6回	開鼻声の評価	講義	鷺見
第7回	構音の評価	講義	鷺見
第8回	異常構音の評価	講義	鷺見
第9回	口蓋裂治療の流れ復習 言語治療	講義	鷺見
第10回	言語治療続き	講義	鷺見
第11回	口蓋裂言語検査	演習	鷺見
第12回	口蓋裂言語検査	演習	鷺見
第13回	聞き取り実習	演習	小松
第14回	哺乳指導	講義	小松
第15回	試験 まとめ(解説)	試験・講義	鷺見

評価方法	■試験 (70 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (30 %)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	口蓋裂の言語臨床 第3版 医学書院
参考図書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版 医歯薬出版
留意事項	予習、復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
嚥下障害 I	板橋美和 野上尚克 田尾史朗	1	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・食べる事の重要性を認識し、正常な摂食嚥下機能を学ぶ。 ・摂食嚥下障害の分類や合併症を学ぶ。

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下の定義や概念について説明できる。 ・嚥下モデルの種類と特徴について説明できる。 ・解剖、機能について説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	摂食嚥下とは	講義	板橋
第2回	摂食嚥下障害をおこす脳卒中（仮性球麻痺・球麻痺）	講義	板橋
第3回	嚥下のメカニズム（嚥下の5期とプロセスモデル）先行期～口腔期	講義	板橋
第4回	嚥下のメカニズム（嚥下の5期とプロセスモデル）咽頭期～食道期	講義	板橋
第5回	嚥下に関する筋 顔面筋、咀嚼筋、舌筋、口蓋筋	講義	板橋
第6回	嚥下に関する筋 舌骨上筋、舌骨下筋、内喉頭筋	講義	板橋
第7回	嚥下に関する筋 国試問題 嚥下運動における筋活動	講義	板橋
第8回	摂食嚥下障害の原因	講義	板橋
第9回	嚥下に関与する神経・咽喉頭感覚・嚥下中枢と大脳の関与	講義	板橋
第10回	誤嚥と呼吸器疾患について	講義	田尾
第11回	老化と嚥下機能の関係	講義	田尾
第12回	小児の摂食嚥下障害	講義	田尾
第13回	摂食・嚥下評価 スクリーニング バイタルサインについて	講義	板橋
第14回	摂食・嚥下障害 VE・VF	講義	野上
第15回	試験	講義	板橋

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 藤島一郎 著/医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 藤田郁代 監修/医学書院 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修/ 中山書店
参考図書	嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 聖隷嚥下チーム / 医歯薬出版株式会社 病気がみえる7脳・神経 第2版 /メディックメディア
留意事項	予習復習につとめてください

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
嚥下障害Ⅱ	板橋美和 野上尚克 田尾史朗	2	3	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下障害Ⅰで学んだ基礎をふまえ、摂食嚥下障害の基本的な訓練法について学ぶ。 ・脳卒中患者における実際の評価・訓練を学ぶ ・リスク管理のための必要な知識を学ぶ。
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下の評価が出来る。 ・訓練計画を立てることが出来る。 ・学んだことを実習で活かすことができる。 ・国家試験の過去問題を解くことが出来る。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	基礎の復習 誤嚥の種類	講義	板橋
第2回	リハビリテーションアプローチ(4つの方法) と具体例	講義	板橋
第3回	摂食時の姿勢(総論)	講義	板橋
第4回	食品調整 食べやすさとは・ゼラチンと寒天の違いなど	講義	板橋
第5回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 説明と準備について	講義	板橋
第6回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 基礎的嚥下訓練 頭部挙上訓練・押し運動・メンデルソン手技など	講義	板橋
第7回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 スライス法・丸飲み法・複数回嚥下など	講義	板橋
第8回	治療的アプローチ(嚥下訓練) 摂食訓練 息こらえ嚥下・横向き嚥下・一側嚥下など	講義	板橋
第9回	訓練法のまとめと過去問	講義	板橋
第10回	チームアプローチ	講義	板橋
第11回	摂食嚥下障害における倫理の問題	講義	板橋
第12回	薬物療法と外科的対応(総論:術式と戦略、過去問)	講義	板橋
第13回	頸部聴診法、スクリーニング検査、MASA	講義	板橋
第14回	総合評価と評価スケール	講義	板橋
第15回	脳卒中患者の嚥下訓練の実際	講義	板橋

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

第16回	気管切開のある患者への対処法:カニューレの種類と特徴	講義	板橋
第17回	呼吸リハビリテーションと吸引の基本	講義・演習	野上 板橋 田尾
第18回	吸引(吸引器と模擬人形を使用した演習)	講義・演習	野上 板橋 田尾
第19回	症例検討 観察の記録 (初回評価)	講義	板橋
第20回	症例検討 観察の記録 (VF)	講義	板橋
第21回	症例検討 問題点と訓練	講義	板橋
第22回	国試問題、まとめ	講義	板橋
第23回	試験	講義	板橋

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 藤島一郎 著 / 医歯薬出版株式会社 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 藤田郁代 監修 / 医学書院 動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション 藤島一郎 監修 / 中山書店
参考図書	嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 聖隷嚥下チーム / 医歯薬出版株式会社 病気がみえる7脳・神経 第2版 / メディックメディア
留意事項	演習時はケーシー、白靴を着用する。予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
吃音	圓越広嗣・天羽郁子・後藤文造	2	2	前期	必修

◇講義概要

吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。

◇到達目標

1. 吃音の症状と進展段階について説明できる。
2. 表面に出ている症状だけでなく背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応できる。
3. 吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	吃音の基礎知識①（種類、発生率、原因論）	講義	圓越
第2回	吃音の基礎知識②（吃音症状、進展段階、悪化要因）	講義	圓越
第3回	吃音訓練法①（直接法と間接法の違いについて）	講義	圓越
第4回	吃音訓練法②（間接法、RASSについて）	講義	圓越
第5回	吃音臨床の実際①（小児領域：環境調整法）	講義	圓越
第6回	吃音臨床の実際②（小児領域：事例検討）	講義・演習	圓越
第7回	吃音臨床の実際③（成人領域：メンタルリハーサル法）	講義	圓越
第8回	吃音を軽減するための訓練・指導について①	講義	天羽
第9回	吃音臨床の実際④（成人領域：事例検討）	講義・演習	圓越
第10回	吃音臨床の実際⑤（成人領域：その他の対応について）	講義・演習	圓越
第11回	吃音を軽減するための訓練・指導について②	講義	天羽
第12回	吃音を軽減するための訓練・指導について③	講義	天羽
第13回	セルフヘルプグループについて	講義	後藤
第14回			
第15回	試験		圓越

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 90%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 10%） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	都筑澄夫編著「改訂吃音」建帛社 都筑澄夫編著「間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への遡及的アプローチ」三輪出版
参考図書	適宜紹介する
留意事項	演習ではグループワークを行います。毎回レポート提出があります。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害 I	中井弘征	1	2	後期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・小児聴覚障害による発達への影響、早期発見・早期療育の重要性、コミュニケーションモードと教育方法など、ハビリテーションの基本（知識・技能）を学ぶ。 ・小児聴覚障害の言語・コミュニケーションの検査と評価、指導・支援の方法を学ぶ。
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児聴覚障害児の各発達段階の特徴と課題を概説できる。 2. コミュニケーションモードの特徴を理解し、基礎的な技能を身につける。 3. 発達段階に応じたハビリテーションの基礎的知識と技法を身につける。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚の機能について（難聴疑似体験）	講義	
第2回	聴覚障害の分類とその影響	講義	
第3回	聴覚の発達と早期発見、新生児聴覚スクリーニング検査	講義	
第4回	聴覚障害の(リ)ハビリテーション(歴史と現状、障害者観・言語指導観の変化)	講義	
第5回	小児聴覚障害ハビリテーション（コミュニケーションモードと教育方法）	講義	
第6回	小児聴覚障害ハビリテーションの概要について	講義	
第7回	[小テスト]、小児の評価①（インテーク、検査と評価：全体発達）	講義	
第8回	小児の評価②（検査と評価：言語発達の評価）	講義	
第9回	小児の訓練①（前提と方針、前言語期～身振り期）	講義	
第10回	小児の訓練②（単語獲得期、2～3語文期）	講義	
第11回	小児の訓練③（多語文期、構文完成期）	講義	
第12回	小児の訓練④（言語指導のまとめ）	講義	
第13回	小児の訓練⑤（聴覚の活用）	講義	
第14回	小児の訓練⑥（発声発語指導）	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改訂4版（南山堂）
参考図書	言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第3版（共同医書出版）
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅱ	中井弘征	2	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・小児の聴覚障害の診断に必要な聴力検査（BOA、COR、VRA、ピープショウ検査、遊戯聴力検査、乳幼児聴覚検診など）の原理と方法について学ぶ。 ・聴覚障害乳幼児への指導・支援について事例を通して学ぶ。

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に対する聴力検査を説明できる。 2. 小児への聴能・言語・コミュニケーション指導のすすめ方がわかる。 3. 事例提示した小児への指導内容をグループで討議し、模擬的に実施できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚の発達と乳幼児聴力検査の概要	講義	
第2回	乳幼児聴力検査（BOA）、乳幼児聴力検査（COR）	講義	
第3回	乳幼児聴力検査（VRA、ピープショウ検査）	講義	
第4回	乳幼児聴力検査（遊戯聴力検査、まとめ）	講義	
第5回	音場聴力検査（SPLとdBHL）	講義	
第6回	選別聴力検査（乳幼児健康診査）	講義	
第7回	小児の語音聴力検査	講義	
第8回	〔小テスト〕、事例紹介と課題提示	講義	
第9回	幼児期の言語指導①（プログラムとアプローチの方法）	講義	
第10回	幼児期の言語指導②（指導・支援の実際）	講義	
第11回	幼児期の聴覚学習①（プログラムとアプローチの方法）	講義	
第12回	幼児期の聴覚学習②（指導・支援の実際）	講義	
第13回	事例検討①（訓練のねらいと内容についてグループごとに発表・集団討議）	演習・講義	
第14回	事例検討②（訓練のねらいと内容についてグループごとに発表・集団討議）	演習・講義	
第15回	試験		

評価方法	■試験（80%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（20%） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改定4版（南山堂）
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児聴覚障害Ⅲ	中井弘征 ・ 梅村健吾 ・ 前田恵美子・ 広中嘉隆 ・ 板東美知子 ・ 立石篤識・	2	2	前期	必修

◇講義概要

・主に小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を知り、指導・支援の実際について学ぶ。

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害の福祉や教育の制度や施策について理解する。 2. 小児聴覚障害の療育・教育機関の特徴を理解し、多様な考え方やアプローチの方法があることを知る。 3. 保護者支援の重要性や関係機関との連携について説明できる。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	療育・教育の制度・施策、療育・教育機関の特徴、就学支援、 自立活動、合理的配慮、理解学習	講義 4/1	中井弘征
第2回			
第3回	難聴幼児の療育①通園施設でのSTの役割	講義 4/30	板東美知子
第4回	難聴幼児の療育②通園施設での療育の実際		
第5回	難聴幼児の療育③事例検討	講義 5/7	立石篤識
第6回	難聴幼児の療育④訓練の実際		
第7回	医療現場における聴覚障害者（成人）へのかかわり （補聴器フィッティング、耳なり等について）	講義 5/18	前田恵美子
第8回			
第9回	福祉事業所における聴覚障害児へのかかわり （親へのかかわり、個別支援計画等について）	講義 6/1	広中嘉隆
第10回			
第11回	福祉制度について	講義 6/17	中井弘征
第12回	教育における聴覚障害教育①通級指導教室について	講義 6/18	梅村健吾
第13回	教育における聴覚障害教育②通級指導教室の指導について		
第14回	聴覚障害にかかわる総まとめ	講義 6/24	中井弘征
第15回	試験	試験 7/7	中井弘征

評価方法	■試験（ 100 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	プリント配布
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院）
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害 I	矢吹 裕栄	1	2	後期	必修

◇講義概要

聴覚障害の理解に必要な聴こえのシステムの基礎をしっかりと把握する。主要な聴覚検査の概要を理解する。難聴や聴覚障害者とのコミュニケーション方略を体験する。聴覚検査の結果から、どのような支援が可能かを考える。

◇到達目標

1. 聴こえのシステムのしっかりと理解しイメージを把握する。
2. 検査結果から問題点を考えどのような支援が出来るか考える事が出来る。
3. 解剖・機能、検査、疾患の関連を正しく把握し、国家試験に必要な基礎力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	音とは何か、聴こえとは、基本用語の確認	講義	
第2回	聴覚器の解剖と機能 伝音系	講義	
第3回	聴覚器の解剖と機能 感音系	講義	
第4回	難聴のタイプ分類と関連疾患	講義	
第5回	聞こえない事による困難 聞こえない事で生じる日常生活上の困難	演習・講義	
第6回	聞こえない事による困難2、実際に見られたトラブル事例	演習・講義	
第7回	難聴者とのコミュニケーション方略、クリアスピーチ	演習・講義	
第8回	聴力検査法1 純音聴力検査	講義	
第9回	聴力検査法2 自記オージオメトリー	講義	
第10回	聴力検査法3 語音聴力検査と聴力検査結果の実例	講義	
第11回	成人の聴覚障害の評価、成人聴覚障害者への支援	講義	
第12回	補聴器と人工内耳による聴覚補償について	講義	
第13回	成人聴覚障害の事例	講義	
第14回	聴覚器と検査結果と疾患の関連の確認（まとめ）	演習	
第15回	試験（60分）・総括（30分）	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 他に必要な資料はプリントで配布する。
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅱ	中井弘征	1	2	後期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・成人の聴覚機能の診断に必要な各種聴覚機能検査（純音聴力検査、語音聴力検査、内耳機能検査、他覚的聴力検査など）の原理と方法について学ぶ。
--

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人に対する各種聴覚機能検査の原理、実施手続き、分析方法について理解できる。 2. 実技演習をとおして検査・診断の技能を身につけ、模擬的に実施できる。 3. 聴覚検査の結果を分析し、聴覚障害症状との関連性について考察できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	聴覚機能検査について、気導聴力検査	講義	
第2回	骨導聴力検査、自記オージオメトリー	講義	
第3回	マスキング（気導、骨導）	講義	
第4回	内耳機能検査	講義	
第5回	語音了解閾値検査、語音弁別検査、マスキング	講義	
第6回	インピーダンス・オージオメトリー、アブミ骨筋反射	講義	
第7回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第8回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第9回	純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス、アブミ骨筋反射	演習	
第10回	〔小テスト〕、聴性誘発反応（蝸電図、ABR）	講義	
第11回	聴性誘発反応（ASSR）、耳音響放射（OAE）	講義	
第12回	機能性難聴の検査、耳鳴検査	講義	
第13回	耳管機能検査、平行機能検査	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 80 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ 20 %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	聴覚検査の実際 改訂4版（南山堂）
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院）
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
成人聴覚障害Ⅲ	中井弘征	2	1	前期	必修

◇講義概要

<p>・成人聴覚障害の診断や指導・支援で必要となる検査法や評価法を理解し、障害の特性やライフステージ上の課題など、個々のニーズや課題にあわせた指導・支援について学ぶ。</p>

◇到達目標

<p>1. 聴覚障害の診断・指導・支援に必要な検査法、評価法について説明できる。 2. コミュニケーションストラテジーや情報保障、障害認識の意義について説明できる。 3. 社会福祉制度や就労支援・生活支援について理解する。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	検査と評価①（聴覚の検査・評価）	講義	
第2回	検査と評価②（コミュニケーション方法や言語力の検査・評価）	講義	
第3回	指導・支援と計画①（補聴器の活用、聴能訓練）	講義	
第4回	指導・支援と計画②（コミュニケーションストラテジー、集団訓練）	講義	
第5回	指導・支援と計画③（障害認識）、就労・生活支援	講義	
第6回	情報保障（補聴援助システム、手話通訳、要約筆記）	講義	
第7回	聴覚障害にかかわる総まとめ	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（ 100 %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版（医学書院） 聴覚検査の実際 改定4版（南山堂）
参考図書	
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
補聴器・人工内耳	中井弘征・森尚彫	2	2	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害における聴覚補償機器（補聴器・人工内耳など）の構造と機能とともに、これらの適応、調整、評価、装用指導について学ぶ。 ・人工内耳の効果や特徴などの概要を学び、人工内耳領域や聴覚障害領域における言語聴覚士の役割や対応について考察し、理解を深める。

◇到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚補償機器の構造と機能について説明できる。 2. 聴覚補償機器の適応（適応基準）について理解し、調整方法や装用の手順が説明できる。 3. 聴覚補償機器の評価方法（装用閾値、語音明瞭度、雑音負荷など）を理解し、模擬的に測定できる。 4. 人工内耳の効果やリハビリテーションについて概説できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	補聴器の仕組み、種類について	講義	中井弘征
第2回	補聴器の調整の基礎(補聴器特性検査、JIS測定)	講義	中井弘征
第3回	補聴器の調整の基礎 (JIS 測定の手順、補聴器から耳への伝達)	講義	中井弘征
第4回	デジタル補聴器の機能	講義	中井弘征
第5回	補聴器のフィッティング (実耳測定、ファンクショナルゲイン)	講義	中井弘征
第6回	人工内耳の概要 (しくみや機能等)	講義	森尚彫
第7回	人工内耳の適応基準について	講義	森尚彫
第8回	補聴器適合評価	講義	中井弘征
第9回	乳幼児の補聴器適合、イヤーマールドの作成	講義	中井弘征
第10回	成人の人工内耳マッピングについて	講義	森尚彫
第11回	小児の人工内耳マッピングについて	講義	森尚彫
第12回	人工内耳の装用効果と限界 (両耳装用など)	講義	森尚彫
第13回	人工内耳のトピックス・その他の人工聴覚機器	講義	森尚彫
第14回	試験	講義	森尚彫
第15回	まとめ・国家試験過去問演習	講義	森尚彫

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版 (医学書院)
参考図書	補聴器のフィッティングと適用の考え方 (診断と治療社)
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
視覚聴覚二重障害	田中薫 小間 瑠実	2	1	前期	必修

◇講義概要

<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の話を聞いて、何が不自由で何ができるかを学ぶ ・ろうベース, 盲ベースによる障害、対応の違いを学ぶ
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・視覚聴覚二重障害の分類とそれに対するコミュニケーション方法が分かる ・いくつかのコミュニケーション手段に興味を持てる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	視覚聴覚二重障害とは? : 当事者のVTRをみながら	講義	小間
第2回	視覚聴覚二重障害者とのコミュニケーションの実際	講義・演習	小間
第3回	視覚障害とは? ・視機能の発達と異常	講義	田中
第4回	視覚聴覚二重障害の分類・原因 対応: 眼科リハ、耳鼻科リハ、療育・教育	講義	田中
第5回	対応: コミュニケーション手段・支援 STの役割 ・連携	講義	田中
第6回	AAC ・福祉サービス ・患者会 ・合理的配慮とは	講義	田中
第7回	復習: 国家試験の過去問を通して	講義	小間
第8回	試験	試験	田中

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	自作資料
参考図書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版 医学書院
留意事項	予習・復習を行うこと

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習 I	臨床実習指導者・専任教員	1	1	後期	必修

◇講義概要

- ・臨床実習指導者のもと、実際の臨床の現場を見学する。
- ・見学を通じそれまで学習した知識を整理するとともに、臨床現場における常識的態度を身につける。

◇到達目標

- ・職業人としての常識的態度や責任のある行動をとることができる
- ・対象者や家族、関連職種と望ましい人間関係を持つことができる
- ・意欲的に取り組む姿勢を持つことができる
- ・施設の概略を理解する

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
	1. 観察・情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・病院、施設内の言語聴覚士の動きを把握する ・対象者に対する医学的治療方針を理解する ・リスクと禁忌事項を確認する 2. 言語聴覚療法の実施および考察 <ul style="list-style-type: none"> ・常に対象者の安全に配慮し訓練を実施する ・実施内容とその反応、考察を記録する ・対象者の状況変化に気づく ・対象者の状況変化に応じて実施内容を変更する 	実習	進行状況は実習施設の状況にあわせて
評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 100 %） 臨床実習の学外実習成績と学内での成績（実習後の提出書類、振り返りの内容）を総合的に判断し成績判定を行う。		

教科書	これまで使用した各種教科書・資料 2022年度 臨床実習の手引き
参考図書	
留意事項	医療機関か福祉機関で、40時間履修する。臨床実習終了後に学内で振り返りを行い、最終評価をし科目認定を行う。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者・専任教員	2	4	後期	必修

◇講義概要

これまで学内で学んだ言語聴覚療法学全般の知識や技術をもとに、各施設の実習指導者の監督・指導をもとで目標、訓練計画の立案、訓練、記録や報告などを経験していく。また言語聴覚士の役割や責任、関連職種とのチームアプローチ、対象児・者や家族とのかかわり方などについて学ぶ。

◇到達目標

学内で学んだことを臨床の場で活用し、応用的な知識・技術を習得する。言語聴覚療法の見学、経験を通して自己の言語聴覚療法観を高める。(実習指導者の実践を模倣しながら主体的に体験する。) またリハビリテーションスタッフとしての立場を自覚し、チームアプローチの在り方を把握することにより、人間性豊かな言語聴覚士を目指す。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
	1. 観察・情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の症状を観察し記録する ・対象者に対する医学的治療方針を理解する ・各療法の位置づけを把握する ・リスクと禁忌事項を確認する ・他の部門からの情報を収集する 2. 検査実施～評価 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の症状から必要な検査を選択する ・常に対象者の安全に配慮し検査を実施する ・適切な用語で記録する ・検査結果を分析・解釈する ・諸情報から問題点をあげる 3. 言語聴覚療法の実施および考察 <ul style="list-style-type: none"> ・常に対象者の安全に配慮し訓練を実施する ・実施内容とその反応、考察を記録する ・対象者の状況変化に気づく ・対象者の状況変化に応じて実施内容を変更する 	実習	進行状況は実習施設の状況にあわせて
評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (100 %) 臨床実習の学外実習成績と学内での成績(実習後の提出書類、振り返りの内容など)を総合的に判断し成績判定を行う。		

教科書	これまで使用した各種教科書・資料 2022年度 臨床実習の手引き
参考図書	
留意事項	医療機関か福祉機関か教育機関で、160 時間履修する。臨床実習終了後に学内で振り返りを行い、最終評価をし科目認定を行う。

令和4年度 言語聴覚学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者・専任教員	2	8	後期	必修

◇講義概要

・これまで学内で学んだ言語聴覚療法学全般の知識や技術をもとに、各施設の実習指導者の監督・指導のもとで目標、訓練計画の立案、訓練、記録や報告などを経験していく。また言語聴覚士の役割や責任、関連職種とのチームアプローチ、対象児・者や家族とのかかわり方などについて学ぶ。

◇到達目標

・学内で学んだことを臨床の場で活用し、応用的な知識・技術を習得する。言語聴覚療法の見学、経験を通して自己の言語聴覚療法観を高める。(実習指導者の実践を模倣しながら主体的に体験する。) またリハビリテーションスタッフとしての立場を自覚し、チームアプローチの在り方を把握することにより、人間性豊かな言語聴覚士を目指す。
・症例報告書を書くことができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
	1. 観察・情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の症状を観察し記録する ・対象者に対する医学的治療方針を理解する ・各療法の位置づけを把握する ・リスクと禁忌事項を確認する ・他の部門からの情報を収集する 2. 検査実施～評価 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の症状から必要な検査を選択する ・常に対象者の安全に配慮し検査を実施する ・適切な用語で記録する ・検査結果を分析・解釈する ・諸情報から問題点をあげる ・短期目標、長期目標を設定する ・対象者のニーズにあわせ訓練の方法を検討し計画を立案する ・上記を症例報告書としてまとめる 3. 言語聴覚療法の実施および考察 <ul style="list-style-type: none"> ・常に対象者の安全に配慮し訓練を実施する ・実施内容とその反応、考察を記録する ・対象者の状況変化に気づく ・対象者の状況変化に応じて実施内容を変更する ・検査結果と訓練の効果をあわせ考察をする 	実習	進行状況は実習施設の状況にあわせて
評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (30%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (70%) 臨床評価実習の学外実習成績と学内での成績 (実習後の提出書類、症例報告会の内容など)を総合的に判断し成績判定を行う。		
教科書	これまで使用した各種教科書・資料 2022年度 臨床実習の手引き		
参考図書			
留意事項	医療機関で、320時間履修する。臨床実習終了後に学内で振り返りと症例検討会を行い、最終評価をし科目認定を行う。		